

令和3年度

アクセシブルな電子書籍等の 普及に向けた調査研究 【報告書概要版】

令和4年3月31日

一般社団法人 電子出版制作・流通協議会

会長 浅羽信行

1.1. 調査の目的

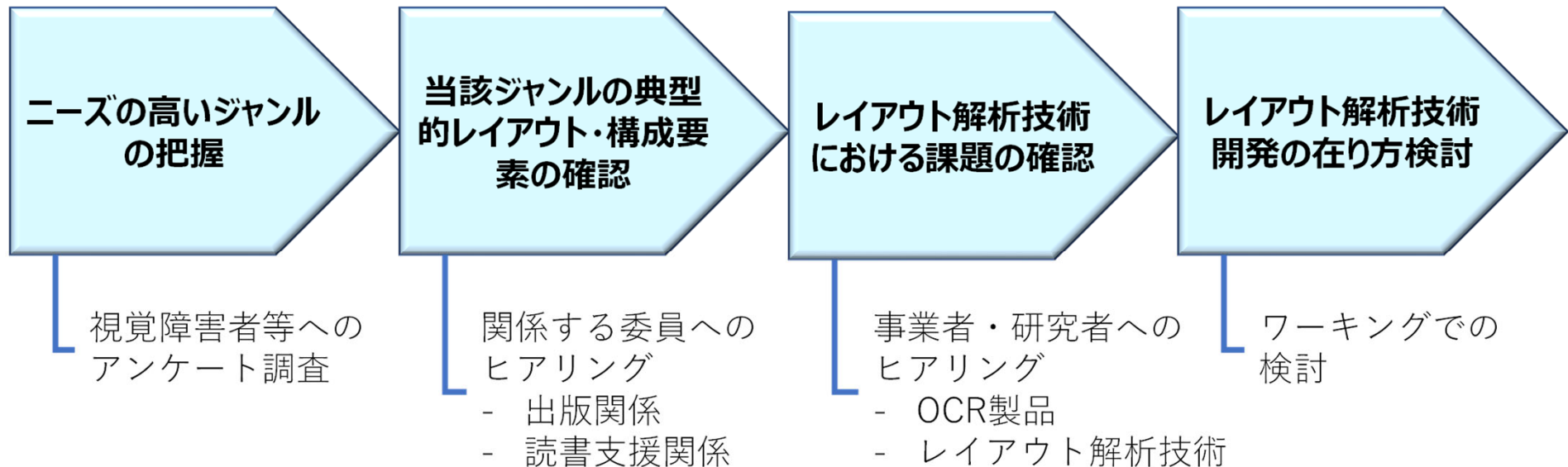
- 令和元年6月、障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的とした「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（読書バリアフリー法）」が公布、施行され、視覚障害者等の読書環境の整備が一層求められるようになった。
- さらに同法第7条に基づき、昨年7月、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」が策定され、この計画において、総務省は「アクセシブルな電子書籍等の販売が促進されるようにするため、昨今の新たな技術（特にICT）の動向と視覚障害者等の多様なニーズを分析し、視覚障害者等の読書環境の整備に向けた取組を検討する」こととされた。
- 総務省では視覚障害者等の読書環境の整備に関し、平成30年度に電子書籍のアクセシビリティ対応状況の調査を行い、EPUB、デイジー図書、オーディオブックといった様々な電子書籍コンテンツのアクセシビリティや、電子書籍ストアやリーダーなど、電子書籍の流通・利用におけるアクセシビリティにおいて多くの課題があることを明らかにしている。また令和元年度には、障害種別に応じた読書に係る有効なツールについて洗い出しを行い、さらに令和2年度には電子書籍等における技術的な課題の絞り込みを実施した。
- 本年度はこれらの調査結果を踏まえ、レイアウト解析技術の高度化を中心とした電子書籍等における課題とICTを活用した解決方法に関する調査、及び電子書籍等を販売するウェブサイトのウェブアクセシビリティ向上に向けた調査を行うこととした。

第一部 レイアウト解析技術の高度化に 向けた調査

1. レイアウト解析技術の高度化に向けた調査の概要

レイアウト解析技術の調査は、以下の手順で実施した。

1. 視覚障害者等を対象としたアンケート調査によるニーズが高いジャンルの明確化
2. 出版関係者等を対象としたヒアリングによる、典型的なレイアウトや紙面構成要素の確認
3. OCR製品提供事業者による紙面構成要素のレイアウト解析・認識実証及びヒアリング
4. ニーズの高いジャンルの書籍を適切に読上げられるようにするための「レイアウト解析技術要件の整理」と、技術の評価方法についての検討



2. 視覚障害者等のニーズ調査

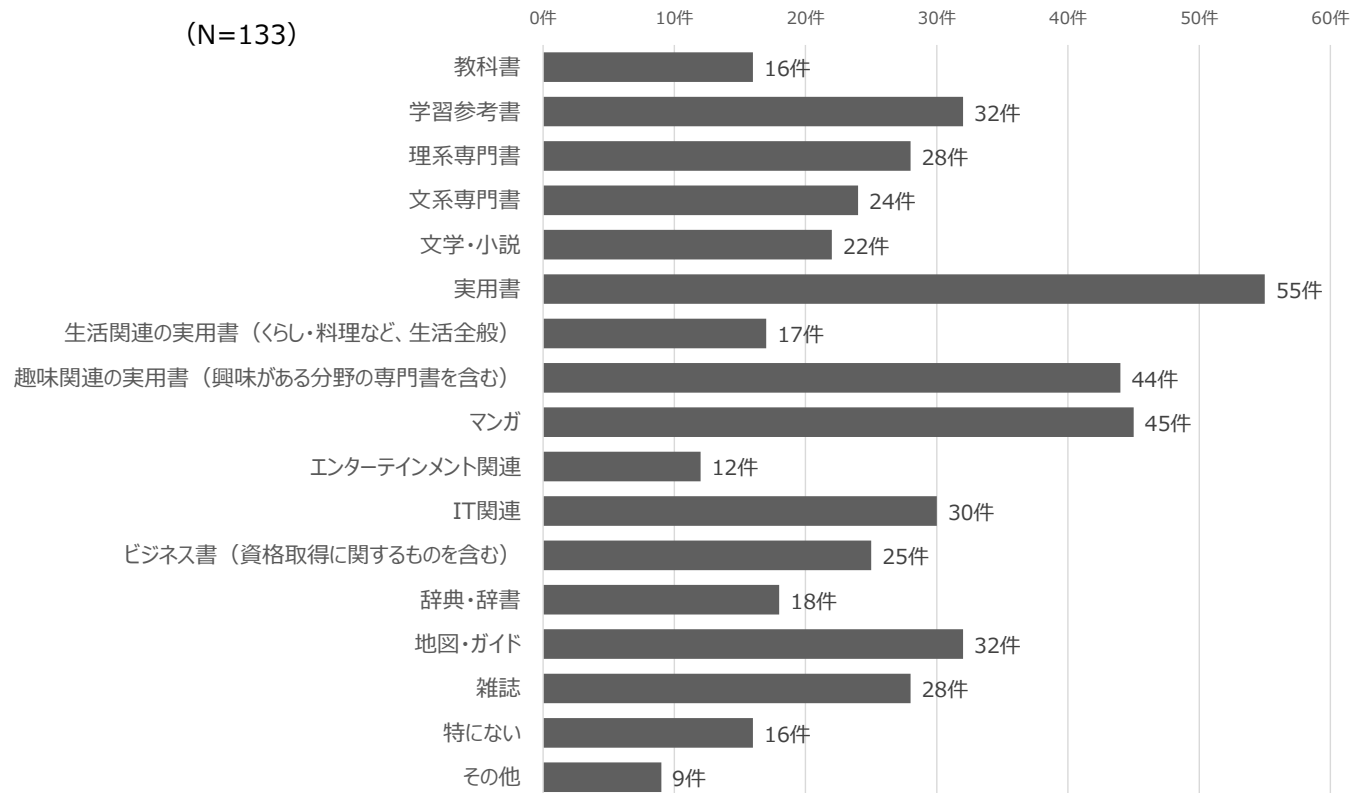
2.1. アンケート調査の概要

アンケートをオンラインで実施し、視覚障害者等の視覚障害者等136名から回答を得た。

2.2. アンケート調査結果

【ニーズがありながら読書できていないジャンル】として、実用書（41.4%）、マンガ（33.8%）、趣味関連の実用書（33.1%）、学習参考書（24.1%）、地図・ガイド（24.1%）、IT関連（22.6%）、理系専門書（21.1%）、雑誌（21.1%）（本問に対する回答者数のうち、当該選択肢を選んだ回答者の割合）が上位となっている。

問11. あなたが読書したいと思っていて、なかなか読書できていないジャンルはありますか。



2. 視覚障害者等のニーズ調査

2.5. ニーズが高いが読めないジャンルの選定

視覚障害者等アンケートの結果やヒアリングの結果を踏まえ、視覚障害者等のニーズが高いが、固定レイアウト型が多かったり、誌面に図表や数式など読み上げに対応していない要素が多かったりするなどの理由によってなかなか読むことができない書籍ジャンルを設定した。

ジャンル	概要
趣味実用	写真やイラスト等を多用した書籍。フルカラーの場合も多い。 雑誌やムック本のようなレイアウトで、見開き単位で誌面が構成されていることもある。
学習参考書	児童生徒が学習のために利用する書籍。理解促進のためイラストや写真が多用されたり、要点を明確に示すため多様な色使いを行っている場合も多い。
資格関連	様々な資格取得のための教材図書等。学習参考書と同様に、理解促進のためイラストや写真を多用したり、多様な色使いを行っている場合も多い。 またIT関係の資格や電気関係の資格など、理系専門書と同様に数式やソースコードなどが多く掲載されている書籍もある。
地図・ガイド	旅行先の案内のため、多色刷りの案内マップ、観光地や店舗を紹介するための写真やイラスト、読者の目を引くための様々なフォントや文字装飾、色使い等を行っている場合も多い。
IT関連	プログラムのソースコード、画面サンプル等が含まれ、また文章中に説明のための日本語とプログラミング言語等のアルファベット表記が混在するといった特徴がある。 またソースコードについては段下げ位置が意味を持っている場合もある。
理系専門書	大学の理系科目等で用いられるような、科学・技術領域の専門書籍。 高度で複雑な数式、表、グラフなどが多用される書籍も多い。

3. レイアウト解析技術の調査

現在のレイアウト解析技術を用いてどの程度の精度でテキスト抽出が行えるかを検証するため、実際の紙面サンプルをレイアウト解析技術を持つ事業者や研究者に提示し、それぞれのレイアウト解析技術を用いてどの程度正しくレイアウト解析・テキスト抽出が行えるかを評価していただいた。

紙面サンプルについては、当事者アンケートを通じてニーズが高いと回答があったジャンルについて出版社の協力をいただき、実際の紙面から様々なパターンを抽出した。

ジャンル	出版社	サンプル書籍
趣味実用	株式会社KADOKAWA	「ぶらぶら美術・博物館プレミアムアートブック2020－2021」p.58、 p.100 「日本テレビ 3分クッキング 2021年9月号」p.8、 p.15、 p.28
学習参考書	株式会社学研プラス	「中一英語をひとつひとつわかりやすく。」p.8、 p.21 「中学公民をひとつひとつわかりやすく。」p.6、 p.54
資格関連	株式会社マイナビ出版	「要点整理から攻略する『ディープラーニング G検定 ジェネラリスト』」p.68、 p.69
地図・ガイド	株式会社昭文社	「ことりっぷ丹波篠山」p.20、 p.104、 p.105
IT関連	株式会社マイナビ出版	「これ1冊でゼロから学べるWebプログラミング超入門」p.117、 p.118
理系専門書	東京電機大学出版局	「新版 電気基礎 上」p.37、 p.42、 p.185

4. 専門家によるレイアウト解析技術評価

4.1. レイアウト解析技術評価の依頼先

レイアウト解析技術評価について、レイアウト解析や文字認識に関して優れた技術を持つ下記の企業・組織に評価を依頼した。

- 株式会社NTTデータNJK
- LINE株式会社
- Kono Japan株式会社
- 国立国会図書館（ヒアリングのみ）

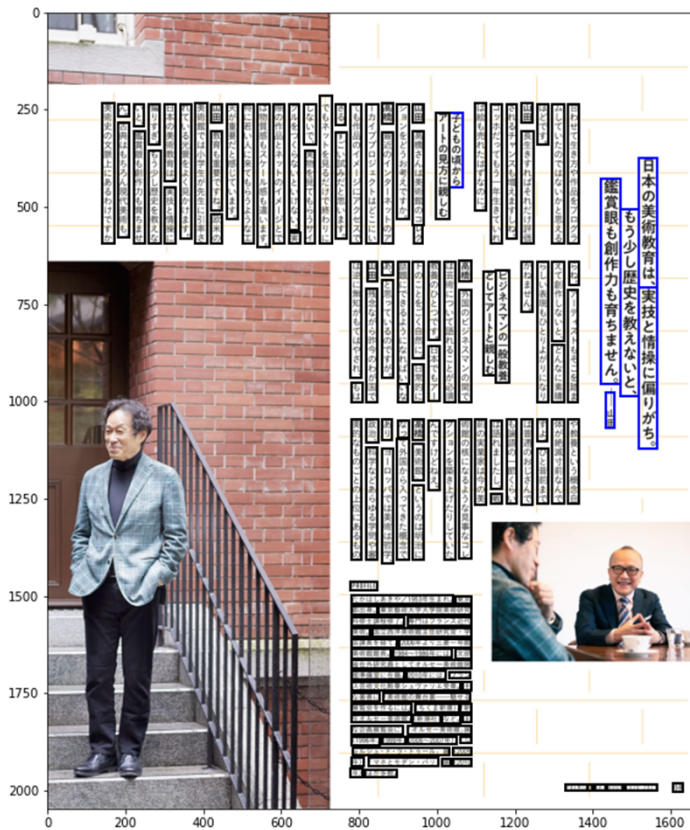
4. 専門家によるレイアウト解析技術評価

4.2. 評価結果

4.2.1. 各社のレイアウト解析技術の特徴

レイアウト解析技術評価に協力いただいた事業者は各社とも高いレイアウト解析技術を用いたOCRソリューションを提供しており、テキスト領域が明確になっていれば縦書き・横書きが混在していても問題なくテキスト領域を抽出できることが分かった。

A社



B社



4. 専門家によるレイアウト解析技術評価

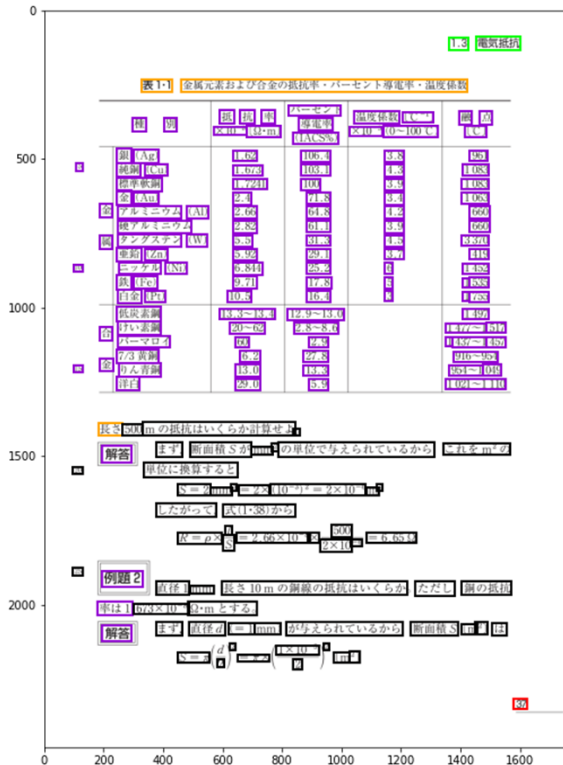
4.2.2. 数式のレイアウト解析

数式については、両者とも正しく認識しないことがある。

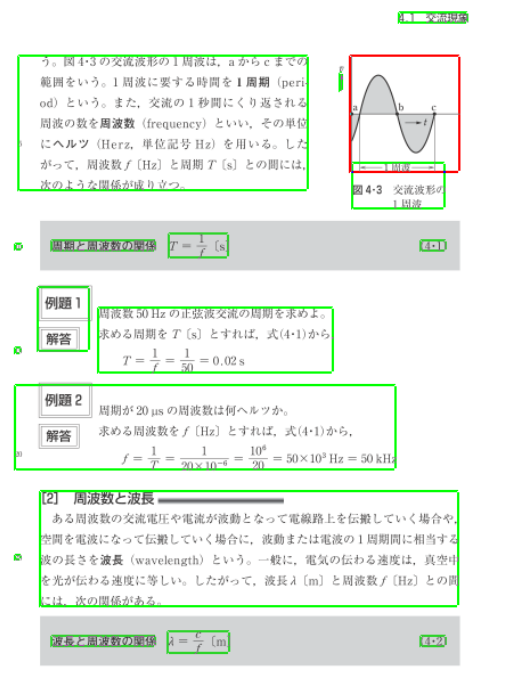
A社は誌面からのテキスト情報抽出に焦点を当てているため、分数などの数式のレイアウトを意識せずテキスト部分のみを特定しており、例えば分数の括線（かっせん、分数の上下を分ける線分）を抽出していない。

一方B社は帳票や文書から行単位あるいは領域単位でテキスト領域を切り出すため、分数が含まれる数式も1行として文字認識を行うことがあり、その場合は正しく文字を認識できない場合がある。

A社



B社



4. 専門家によるレイアウト解析技術評価

4.2.7. 評価結果まとめ

- 多様な誌面のレイアウト解析について評価した結果、テキスト領域の切り出しとその領域に含まれるテキストの認識については非常に高いレベルで実現されていることが明らかになった。
- 両社の解析結果では、数式のレイアウト解析や多様な背景からのテキスト領域切り出しなど、一部の要素については誌面の情報を適切に抽出できない場合があったが、これらは両社がそれぞれ提供しているソリューションでは求められていない要素であり、技術的には解決可能と考えられている。
- 基盤となる技術自体は確立してきており、個別のニーズに対応した開発を行っていく段階にあると認識されている。
- 視覚障害者等の読書ニーズを満たすためには、誌面から単にテキストを正確に抽出するだけでなく、様々な構造情報を正しく解析して利用者に提供したり、異なる領域に記述された文章を正しくつなげ、意味の分かる形で提供したりすることが必要であり、それを実現するためにはまだ技術課題が残されていることが指摘されている。

5. 今後の技術開発の方向性

5.1. 技術的な検討課題

技術的な検討課題を整理すると、以下のようにまとめられる：

- 内容を正しく反映したテキストデータの生成
 - レイアウト解析で得られた断片化されたテキスト情報から、内容の並びに沿って順序付けて内容を正しく反映したテキストデータを作り出すこと
- 数式等のレイアウト解析
 - 数式をはじめとした現在のレイアウト解析技術では適切にテキスト化できない誌面要素を対象としたレイアウト解析を行えるようにすること
- 誌面の構造化
 - レイアウト解析によって誌面を構造化し、本文のみのテキストデータを生成したり、音声によるナビゲーションや図表等の内容理解に活用したりできるようにすること

5. 今後の技術開発の方向性

5.2. 技術開発の方向性

2.2.1. 内容を正しく反映したテキストデータの生成

- 自然言語解析による文章内容理解や、誌面情報からの構造情報の取得といった点が技術開発課題
- 自然言語解析技術については、レイアウト解析技術と文字認識技術を利用して得られた断片化されたテキスト情報を、文章の内容に沿って正しく並べることにより、もとの誌面に記載されていた文章を利用できる形に再構成することが目的
- その他、テキストが誌面上のどこに配置されていたか、図表など他の誌面要素との関係があるかなど、位置情報を用いる手法も検討されている

5.2.2. 数式等のレイアウト解析

- 数字や記号の認識や個々の文字要素の座標情報の取得は可能になっており、数式として正しく読み上げるためには要素を適切に数式に組み上げること、そしてそれをどのように読ませるかを定義することが必要
- 数式の標準的な表記法及びそれに対応した読み上げ方法はすでに存在しており、それらを踏まえてどのようにルール化を進めていくかが重要になる

5.2.3. 誌面の構造化

- 見出しやキャプション、ノンブルなど一般的な誌面に存在している要素をある程度特定できるようになっているが、固定レイアウト型電子書籍の音声読み上げにおいて見出し情報をナビゲーションに利用したり、図表のキャプションを用いて図表内容の理解支援を行ったりできるようにするためには、より精度を高めることが必要
- 精度向上のために出版社等の協力を得て、正しいレイアウト情報や構造情報を活用することが重要

5. 今後の技術開発の方向性

5.3. 研究開発に必要な要素

- AI・ディープラーニング等の有効性が高く評価されており、研究開発を進めていくためには、学習用データの充実が最も重要であると指摘されている。
- 著作権等の課題もあり、最新の誌面によるデータセットに対するニーズが強い。
- 出版社や電子書籍制作事業者側でも電子書籍の構造情報のモデル化や標準化を進めることの有用性が示されており、技術開発と合わせて取り組んでいくことによって固定レイアウト型電子書籍の音声読み上げに向けた技術基盤の確立に向けて進んでいくことが期待される。
- 今回のレイアウト解析技術の調査結果から、技術的には一定のレベルに達していることが明らかになった一方、具体的なニーズや市場が顕在化していない状況において、これを目的とした研究開発のための環境が整っていないことが課題として示された。
- 解決のためには、固定レイアウト型電子書籍の音声読み上げに対するニーズがあり、市場性も期待できることを確認し、レイアウト解析技術を持つ事業者をはじめ、出版社や電子書籍制作事業者を巻き込んだムーブメントを作っていくことが必要になる。
- レイアウト解析技術を用いて何を、どのようなレベルで実現するかといった求める要件についても具体化を図っていく必要がある。目標が明確に示されることにより、技術開発の道筋が定まり、実用化に向けて大きく進んでいくことが期待される。

第二部 電子書籍ストアウェブサイトの ウェブアクセシビリティ調査

1. 電子書籍ストアウェブサイトのウェブアクセシビリティ調査の概要

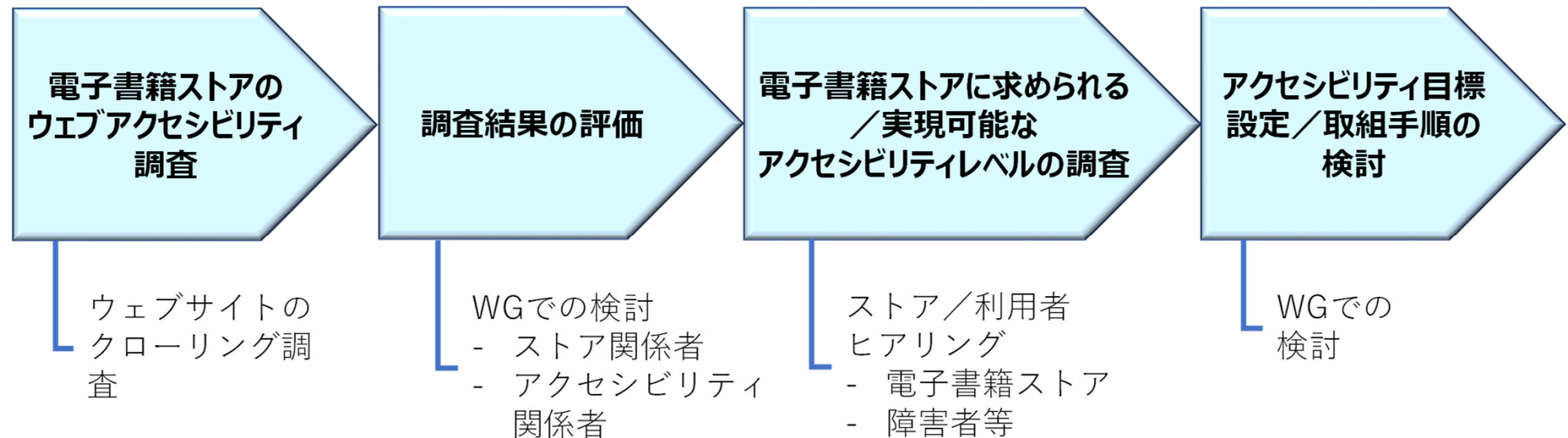
電子書籍ストアウェブサイトのウェブアクセシビリティ調査は、以下の手順で実施した。

手順1：電子書籍ストアのウェブアクセシビリティ調査：

手順2：調査結果の評価：

手順3：電子書籍ストアに求められる／実現可能なアクセシビリティレベルの調査：

手順4：アクセシビリティ目標設定／取組手順の検討：



2. 電子書籍ストアのウェブアクセシビリティ機械的検証

2.1. 調査対象

JIS X 8341-3:2016対応の全ページ検証プログラムであるAionを使用し、公共機関のウェブアクセシビリティ検証のために総務省が開発し提供しているチェックツール「miChecker(エムアイチェッカー)」のチェック項目と基準に準じて対象ページのアクセシビリティ対応状況をチェックした。

書店名	概要
Kindleストア (Amazon Kindle)	アマゾンが提供するサービスの一つであり、扱う電子書籍のジャンルは幅広い。漫画にはブラウザで読めるものがあるが、基本的にはKindle（アプリ及び端末）を用いて読む。Kindle Unlimitedでは、200万冊以上が読み放題。
楽天Kobo	楽天ブックスの中の一つの商品カテゴリとして提供されている。専用のリーダー端末が販売されているが、PC・スマホなど他の端末で読むには、楽天Koboアプリのインストールが必須となる。幅広いジャンルの電子書籍を扱っている。
honto	大日本印刷株式会社が運営するハイブリット型の総合書店であり、電子書籍と本の通販のストアを併設している。ボタンを1回押すだけでカートを通らずに電子書籍を購入できるワンストップ購入の機能がある。
BookLive!	凸版印刷グループのBookLiveが運営する日本最大級の電子書店であり、取り扱いジャンルは幅広く、数量も最大級。株主でもあるCCCのTポイントを獲得できる。試し読みはブラウザで直ぐに読むことができる。
Google Play Books	Google Playの中では「書籍&マンガ」として提供されている。コンテンツは電子書籍、音声ブック、マンガの3つに分類して提供しており、それぞれに15以上のジャンルがある。支払い方法等はGoogleの他のサービスと共通。
ebookjapan	老舗のまんが専門電子書籍ストア。運営会社がヤフーのグループ会社になり、現在はヤフーのサービスとして提供している。試し読みはブラウザで直ぐに読むことができる。
コミックシーモア	NTTソルマーレ株式会社が運営。小説・実用書等の漫画以外のコンテンツもあるが、漫画コンテンツが充実しており、自社の編集部による複数の漫画オリジナルレーベルもある。無料立ち読みはブラウザで直ぐに読むことができる。

2. 電子書籍ストアのウェブアクセシビリティ機械的検証

2.2. 機械的調査結果

2.2.1. 調査結果の概要

全ての調査対象サイトに、何等かのエラーが検出された。

障害者が全く利用できないような致命的なエラーは、機械的には検出されていない。

2.2.2. 調査対象の多くに共通して検出された問題点

調査対象サイトの多くに共通して検出された問題点として、以下の3点があげられる。

- (1) 同一テキストの繰り返し
- (2) 画像の代替テキストの未設定
- (3) 標準に則っていないHTMLの記述

3. 知見を持つ人による評価

ウェブアクセシビリティの評価については機械的調査だけでは一部の課題についてしか検出することができず、実際にウェブアクセシビリティに知見を持つ専門家や障害がある当事者がアクセスし、評価することが必要となる。

本調査ではウェブアクセシビリティの評価やアクセシビリティ実現のためのコンサルティングに携わる専門家に実際に電子書籍ストアを評価してもらうことにより、人間による目視や動作確認を通じてアクセシビリティ対応状況の評価を行った。

以下のような点に問題が多く見受けられた。

- 画像の代替テキスト
- 見出しのマークアップ
- フォームコントロールのラベル
- 文字色と背景色のコントラスト
- キーボードでの操作性
- フォーカスインジケータの表示
- 隣接した画像リンクとテキストリンク
- 画面の拡大表示
- 色の違いに依存した表現
- 自動的に動き続けるコンテンツ

4. 当事者によるモニター評価

調査協力者（視覚障害者等）に、実際に電子書籍ストアにアクセスして読みたい書籍を探し、内容を確認したうえで購入手続きに進む（実際に購入はしない）手順を実施してもらい、そのプロセスをモニターするとともに、調査協力者に操作中に感じたことを発話してもらい、その内容を記録・分析した。

- 視覚障害者(全盲)（失明前は公務員。現在は市を跨った視覚障害者団体の代表）
- OS Windows10、ブラウザ Google Chrome、読み上げソフト PC-Talker10
- 標準スピード(スピード4)で読み上げさせながらキーボードでパソコンを操作

■ 共通に確認された課題

- どのページに移動してもタイトル内に長々とした同じフレーズが入っているので、聴きにくく、また分かりにくくなっている。必要な情報が加わっていたとしても、伝わりにくくさせている。
- 情報を詰め込み過ぎている。トップページを一気に読ませた最短で13分、最長68分。読み上げユーザーには、斜め読みや拾い読みができないことへの配慮がない。

5. 電子書籍ストアに求められるウェブアクセシビリティレベル

5.2. 当事者や支援者からの具体的な要望に関する電子書籍ストアへのアンケート概要

5.2.1. アンケート項目 1 : JIS X8341-3:2016で要求されるアクセシビリティレベルへの対応

JISで示されたアクセシビリティ対応項目については、公共機関のウェブサイト等では準拠することが求められている項目であり、将来的には電子書籍ストアにも原則として対応が求められる項目である。

項目例	内容
画像の代替テキスト	画像を使用する際は、利用者が画像を見ることができなくても同等の情報が得られるように、HTMLコードで代替テキストを提供する
見出しのマークアップ	ウェブページに見出しがある場合、見た目だけではなく、HTMLコードでh1～h6要素のいずれかを用いて見出しとしてマークアップする
フォームコントロールのラベル	テキストフィールドやラジオボタン、チェックボックスなどのフォームコントロールと、その内容を示すラベルをHTMLコードのマークアップで関連付ける
文字色と背景色のコントラスト	弱視者等でも文字を読みやすくするために、文字の色と背景の色とのコントラスト比を十分に確保する
キーボードでの操作性	マウス操作が困難な肢体不自由者等も利用できるよう、ウェブページにある機能は、キーボードだけでも操作できるようにする
フォーカスインジケータの表示	利用者がキーボードで操作しているときには、画面上でフォーカスの現在位置を示すフォーカスインジケータを常に表示する ※フォーカスインジケータが表示されていないと、画面を見てキーボードで操作しているときにフォーカスの現在位置が分からないため
画面の拡大表示	弱視者が拡大表示した際に横スクロールなどが発生しないよう、ブラウザの画面表示を（例えば200%まで）拡大しても、コンテンツの閲覧や機能の操作に支障がないようにページを設計する
色の違いに依存した表現	色弱者が理解可能なように、色の違いによって情報を伝えるときは、利用者が色の違いを知覚できなくても理解できるようにする
自動的に動き続けるコンテンツ	ウェブページに、自動的に動くコンテンツがあり、その動きが5秒よりも長く続く場合には、利用者が必要に応じてその動きを一時停止、停止または非表示にできるようにする

5. 電子書籍ストアに求められるウェブアクセシビリティレベル

5.2. 当事者や支援者からの具体的な要望に関する電子書籍ストアへのアンケート概要

5.2.2. アンケート項目 2 : 書籍が読み上げ可能かどうかの情報提供

読み上げ可能かどうかの情報提供は、優先度の高い要望項目と位置付けられる。

項目例	内容
書籍紹介ページで読み上げの可否情報を提供する	書籍がリフロー型（読み上げ可能）、リフロー型（読み上げ不可）、固定レイアウト型（読み上げ不可）の情報を提供する
読み上げサンプルの提供	サンプル表示に合わせ、音声読み上げ可能な書籍はスクリーンリーダー等で読み上げられるようにし、操作説明等も記述する

5.2.4. アンケート項目 4 : その他

通常のウェブサイトと別のサイトを用意することについては、コスト面での危惧、あるいは専用サイトの維持管理についての課題等が示され、必ずしも適切な解決策ではないとの意見もある。

項目例	内容
通常のサイトと別のテキスト版サイト提供	通常のサイトとは別に、音声読み上げでの利用を想定したテキスト版サイトを提供する

5. 電子書籍ストアに求められるウェブアクセシビリティレベル

5.2. 当事者や支援者からの具体的な要望に関する電子書籍ストアへのアンケート概要

5.2.3. アンケート項目3：視覚障害者等の利用を想定したサイト制作上の配慮

JISに規定されていないサイト制作上の配慮については必要性に議論があり、今後検討が必要な項目である。

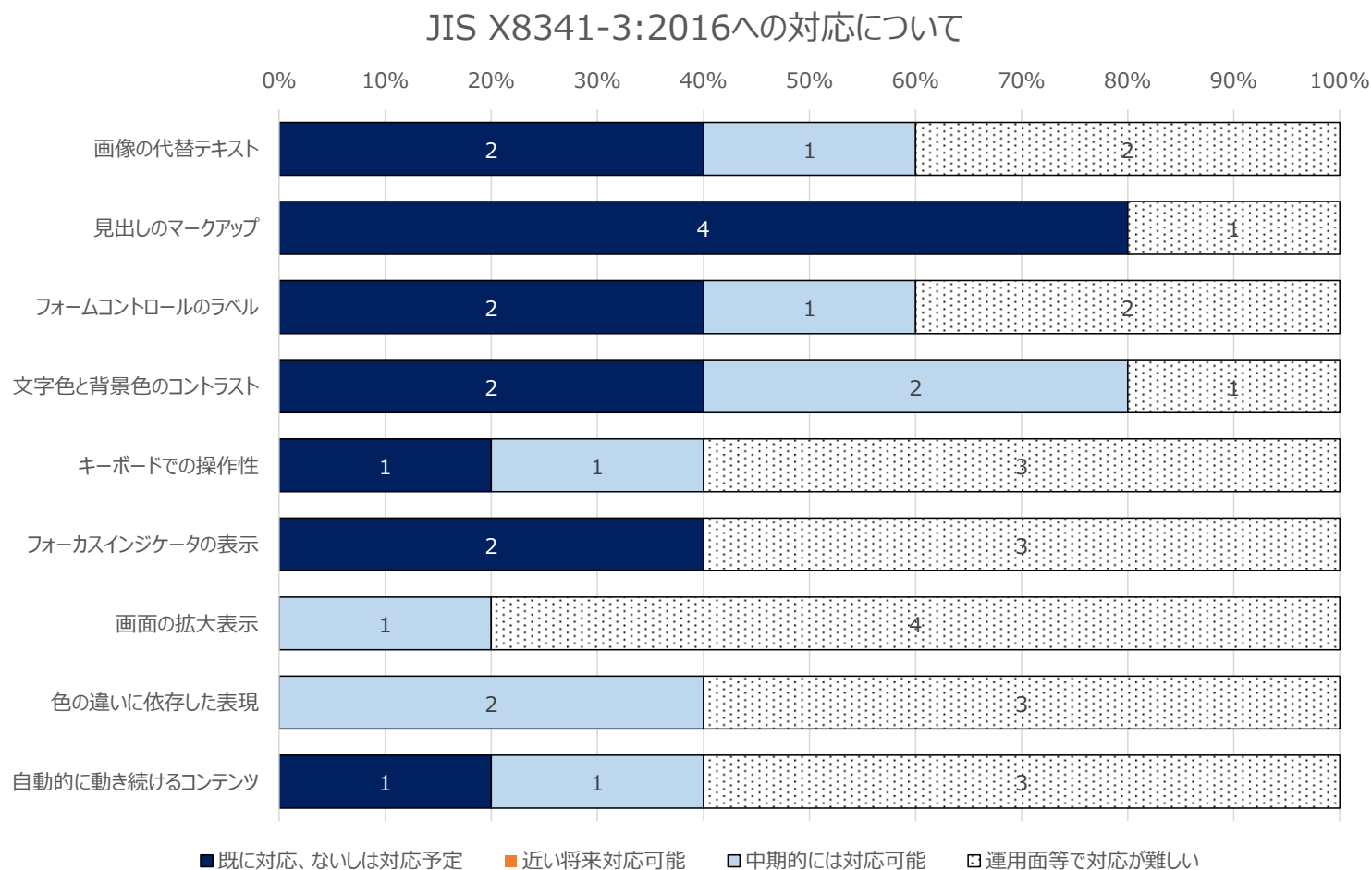
項目例	内容
隣接した画像リンクとテキストリンク	リンク先が同じ画像リンクとテキストリンクが隣接している場合、別々のリンクにするのではなく、1つのリンクにまとめる ※JIS項目ではないが、音声読み上げで同一内容を繰り返し読み上げることを避けるため
操作に必要な情報の集約	最初の方に重要なボタンをまとめて、音声で利用する際に広告等で時間をとられないようにする
デモ動画等による利用案内の提供	ページの使い方、操作の仕方等について、「詳しく知りたい方はここをクリック」の部分をクリックすると、動画配信を使って音でも説明する
「本文に移動」等のナビゲーション支援	ページの冒頭に「本文に移動」や「アルファベットのEを押して検索に移動」等のリンクを用意することで、各ページにあるヘッダー部分やバナー広告等を飛ばして本文や検索フィールドにすぐにアクセスできるようにする
読み上げて意味を伝えない記号を使わない	区切りとして用いている「 」「:」「-」等の文字は読み上げられても意味が伝わらないため、できるだけ使用しない
ページタイトルの簡略化	ページタイトルが長文だと読み上げに時間がかかるため、シンプルなページタイトルにする。また検索結果や書籍紹介、購入手続きなどはそれぞれのページの内容を伝えるタイトルにする
検索結果ページの改善	検索結果ページの<title>に「〇〇の検索結果」と載せることで、書籍が検索できたことを伝える。また書籍名を<h>タグで囲み見出し化することで、Hキーでの移動ができるようにする
書籍紹介ページの改善	書籍紹介ページの<title>に書籍名を載せることで、書籍が検索できたことを伝える。
購入手続きの改善	メールアドレスやパスワードの入力規則を“全角英数での入力を防ぐための半角英数縛り”にしないことで、メールアドレスのコピペや日本語変換を用いた入力を妨げないようにする

5. 電子書籍ストアに求められるウェブアクセシビリティレベル

5.3. アンケート結果：電子書籍ストアにおける取組状況（抜粋）

JISに定められたアクセシビリティ項目への対応については、「見出しのマークアップ」についてはすでに対応しているとの回答が4件と多数を占めており、また中長期的に対応可能な事業者が過半を占めている項目に「文字色と背景色のコントラスト」、「画像の代替テキスト」、「フォームコントロールのラベル」がある。

一方で、「キーボードでの操作性」、「フォーカスインジケータの表示」、「色の違いに依存した表現」、「自動的に動き続けるコンテンツ」そして「画像の拡大表示」については運用面等で対応が難しいと回答した電子書籍ストアが過半を占める結果となった。



6. 電子書籍ストアのウェブアクセシビリティ実現に向けた取組方策

ターゲットとする利用者像の明確化

- どのような利用者をターゲットとして想定するかを整理することが重要。
- ターゲット利用者として「スクリーンリーダー等の支援ソフトを利用し、一人でパソコン操作等を行える人」を対象とすることが適切との共通認識が得られた。
- 多様な障害がある利用者を想定すべき。弱視の利用者で普段は音声中心だが必要に応じて画面を拡大して見ている利用者や、色覚異常がある利用者、障害者ではないが視力が低下し音声で読書したい利用者など、幅広い利用者を想定する必要がある。
- また盲ろう者など音声と点字を利用する利用者にも気を配る必要があることが指摘されている。

電子書籍ストアとのコミュニケーションの必要性

- アクセシビリティ対応の必要性は認識されているが、大変な負担になるのではないか、あるいは魅力的なデザインにしたり、SEO対策をしたりといったマーケティング上の取り組みとバッティングしてしまうのではないかと危惧されている。
- アクセシビリティ対応は特別なことを行うのではなく、サイト設計の基本に忠実に作ることで相当に高いレベルのアクセシビリティが実現できることを電子書籍ストア側のキーマンに対して伝えることで、電子書籍ストア側の懸念、抵抗感を解消していくことが重要。

ガイドライン作成の重要性

- ガイドライン、あるいはより参考情報的な位置づけであるガイドブックを取りまとめ、それを指針として取り組んでもらうとともに、利用者側もそのガイドラインを踏まえて電子書籍ストア利用に必要な能力や基本的な操作等を理解してもらうことが可能となる。
- 優先的な取り組みとして、利用者側とストア側双方が参加しながらガイドラインの策定を進めていくことが必要。